霞(かす)むはといふ間に我もかすみけり

この句は、ぼんやりと見えているかすみの中に、たよ女もいっしょにかすんでしまったという、こまやかな気分をうまく言いあらわしています。

めかくしを取ればひゝなの笑顔(えがおかな)哉

この句は、ひじょうに美しい句です。たよ女の家は、古くから伝わるりっぱな家ですから、くらの中にでもひっそりとしまい込んでおいた節句ひながあったと思われます。そのひとつひとつにおおわれた、紙の目かくしをはずすと、おどろくようなひなのえ顔をみたというのです。

一本のはしに限るや心太(ところてん)

心太と書いて、俳句ではところてんと読みます。今ではあまりみられませんが、ところてんは、子どもたちの夏の食べ物でした。さっとすとしょう油